

研究ノート

テキスト教材作成を巡って

河 田 一 郎

要約

ドイツ統一後、2006年8月1日にドイツ国内では新正書法が施行された。日本国内では新正書法への対応が多岐にわたり、混乱が落ち着くのに時間を要した。この間、つづり方以外にも日本のドイツ語の需要に変化が生じ、テキストの内容にも変化が生じたのである。この稿ではテキスト作成の際に生じた出来事、またその対応策を紹介するものである。

キーワード：ドイツ語・テキスト教材

1. はじめに

1990年に第1冊目のドイツ語文法読本を上梓し、現在14冊目の新刊の出版に向けて準備をしている。その間、歴史的な大きな出来事として、ドイツ本国では正書法の改正が行われた。ドイツではこれまで慣れ親しんだ正書法への愛着が強く、社会問題にもなった。日本国内でもドイツ語教授法に変化が生じ、今現在も変化を続けている。私は主に読本部分を担当してきたが、いかに学生たちの興味を引く内容を選ぶか、つねに頭を悩ませてきた。私なりの完成形にたどり着くまでの過程をここに残しておきたいと思う。

2. はじめてのドイツ語のテキスト作成

私の先輩である本郷建治元日本大学教授、佐藤彰元日本大学教授、そして令和7年3月末までご定年となられる日本大学教授の渡辺徳夫先生らのグループに参加させていただき、30年の月日が経過した。記念すべき第1冊目の文法読本『ドイツを夢見て』（写真1）を出版した当時、通信手段の一つとしてポケベルが使われていた時代である。原

稿の主なやり取りは郵送と電話であり、対面で細かな確認を行うという流れで作業を行っていた。出版社は当時、台東区下谷にあり、大学院を出たばかりの渡辺徳夫先生と私の二人が使い走りとして、出版社へよく足を運んだものである。対面でのやり取りで、新人の我々はなかなか意見が言えず、帰りの駅に向かう途中、やはり原稿の変更をお願いしたいということになり、鶯谷駅前の公衆電話から電話をして、我々の意向を伝えたことを覚えている。結果として、9千部の作成依頼を受けた。これはビギナーズブックということもあったのかもしれないが、第二外国語としてドイツ語を選択する傾向が強かったということなのである。今は残念ながら、他の言語が第二外国語として選択されている状況である。

3. 文法事項の掲載内容の変化について

私が初めてテキスト作成に取り組み、『ドイツを夢見て』（Deutsches Lesebuch mit Grammatik—von Deutschland träumen—）（写真1）を出版した当時は、人称代名詞は「ich / meiner / mir / mich」というように、すべての代名詞の2格

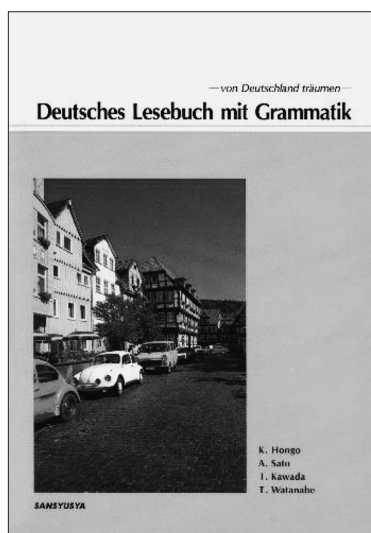


写真1 『ドイツを夢見て』

(meiner) を載せるというのが当たり前の時代であった。もちろん辞書の場合は必要であるが、文法の説明上、不定冠詞類の変化と全く別の人称代名詞の2格の形が似ているので、学生が混乱しやすいのである。一般のドイツ語のテキストの場合、今では人称代名詞の2格は省略されている。

4. 最新のネタを扱う際の注意事項

テキスト1作目が印刷される直前、歴史的な出来事が起こったのである。ベルリンの壁の崩壊である。壁が壊れると誰が思っていただろうか。編集者がベルリンの壁崩壊の写真をギリギリで印刷所に持ち込んでくれたおかげで、我々のテキストだけが唯一歴史的出来事を報じることができたのである。その後もエイズ関連、スポーツではサッカーのゴールキーパーのカーン選手、一世代前のドジャースの野茂選手等、当時は旬なネタが鮮度が落ち、古臭いものに感じてしまうのである。「けんかをやめて」、「駅」などで知られている女性歌手がある音楽番組でこのようなことを言っていた。「その時々のはやりの音はすぐに古臭くなる」まさにその通りである。

5. ドイツ語を学ぶことはステータス

映画『山本五十六』¹⁾の中で、かつてドイツ語を

学ぶことはステータスであったという描写がある。ヒトラーの『Mein Kampf』の中で日本人の特性について書かれた部分があり、将校たちが上官にくってかかるシーンがある。将校たちは『わが闘争』を翻訳で読んでいたのである。翻訳では日本人にとって都合の悪い箇所が削除されていたのであった。上官はドイツ語ではこう書かれていると説明をするのである。文法を理解し、原文で読めるということがいかに大事なことを教えてくれる場面である。

6. 原文からの引用

ゲーテ研究者である菊池栄一先生の元で教を乞うた時代があった。菊池先生は教科書に載せる文章はネイティブの文章から持ってこなければならぬとおっしゃっていた。私たちの立場としては、テキストを使う学生側に立ち、彼らにとって興味深い内容を選び、アレンジをするというやり方でテキストを作成してきた。恩師の教えに反するように思われるかもしれないが、その分、複数のネイティブに協力してもらい、自然なドイツ語として生まれ変われるのである。理想的なテキストの内容とは」という間にヒントを見つけたのが、フリーターと福沢諭吉を比較して『時代の変革期における教育者像』を執筆した時に出会ったのである。テオドル・フリートナーはドイツ近代看護の創始者であり、福沢諭吉は新時代にオランダ語が役に立たないと分かるやすすさま英語を取り入れた人物である。

7. 翻訳アプリについて

翻訳ソフトの進化には驚くべきものがある。また翻訳アプリを使用した場合の不具合も多く目にする可能性がある。卒業生の中に、翻訳アプリ開発に携わる仕事をしている方がおり、翻訳されたドイツ語が正しいかどうかと尋ねられることがしばしばあった。そのやり取りの中で、気づいたことがある。この言葉を使うとこのように翻訳される

という、アプリの癖を見つけたのある。最近では翻訳アプリの癖を利用して、試験問題を作成している。おかげでアプリを使用したかどうか、つまりカンニングをしたかすぐにわかるようになった。

コロナ禍でオンラインで試験をしたときに、なぜこのような解答になるのだろうか、しかも数名が同じ箇所でも同じ間違いをしていたことに疑問を感じた。当時に比べて、アプリの性能が確実に進歩をしてことは確かである。医療の世界では論文を読む際に、かなりの部分を翻訳アプリに頼っていると、あるテレビ番組である医師が述べていたが、少し不安を感じたのであった。なぜならば、私の場合ドイツ語に関しては間違いを指摘できるが、他の分野に関しては何が正解なのか判断ができないからだ。

8. 表紙へのこだわり

テキストの表紙にはこだわりをもってきた。学生自身にオシャレなテキストだと思って持ち運んでもらいたいという思いからであった。そのためにはまず採用してくださる先生方に手に取ってもらう必要があるからだ。クリムトの『接吻』を表紙にした『ドイツ語ルネサンス[第3版]』(写真2)について、渡辺徳夫先生が同僚の方から「すてきなテキストですね」と褒めていただいたと聞き、たいへん嬉しく思ったことを覚えている。実物を

ウィーンのベルヴェデーレ宮殿で初めて見たとき、なんてタッチが雑なのであろうと素人なりに感じたのであるが、その時以来いつかテキストの表紙に使いたいと考えていた。これまで表紙は編集者サイドに任せていたが、自ら手掛けたのはこれが初めてのことであった。道都大学美術学部の教授をはじめ、多くの先生方のご意見を伺い完成することができた。最後の最後まで、問題になったのが、クリムト自身がモデルとされる男性の頭部の一部が欠けてしまうことであった。最終的に微調整をしていただき、かろうじて頭の上部分がカットされずに済んだ。『気分はドイツ[改訂版]』(写真3)では、クリムトを超える表紙はないかと悩んだ末、東山魁夷の絵はどうかということになった。世界的に有名な画家なので、テキストの表紙への使用は難しいのではないかと考えていた。編集者から美術館へ連絡を入れてもらおうと、あっさりと使用許可がでたのである。候補に『晩鐘』と『緑のハイデルベルク』が挙がったが、フライブルクの夕暮れを背景とした教会が採用されたのであった。美術館の館長のご厚意に感謝を申し上げる次第である。渡辺先生と私の集大成となるであろう構想中のテキストの表紙は、ドイツ語学院ハイデルベルクから修行時代が始まった我々の生涯には『緑のハイデルベルク』がふさわしいかもしれない。

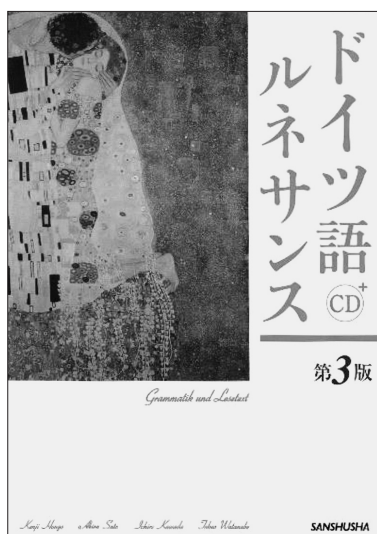


写真2 『ドイツ語ルネサンス』



写真3 『気分はドイツ』

9. 遊び心

ヒッチコックが自作にカメオ出演することが知られている。名監督と比較するのは失礼であるが、私にもテキストを作成する際にちょっとした遊び心が沸くことがある。例えば、年号の読み方のページである。Ich bin am 3. August 1956 geboren. 「私は1956年8月3日に生まれました」と自分の誕生日を入れてみたり、テキストの手紙の書き方を紹介するページでは、その時々でお世話になった方のお名前をお借りしたりしている。テキストをお使いの先生方が「ニヤリ」とする顔を想い浮かべながら、宛先に「峰不二子様」としてみたりしている。一度、こちらの意図を見抜いた学生がおり、努力が報われた思いがした。

10. アニメで使われるドイツ語

最近、アニメでよくドイツ語が使われているようだ。学生たちにはドイツ語の響きがカッコいいらしい。『新世紀エヴァンゲリオン』の惣流・アスカ・ラングレーが義母とドイツ語で話すシーンがユーチューブで話題になったことがあるが、初級会話の教材として間違い探しをするのも面白いかもしれない。

若者たちに人気のあるマンガで、ドイツを連想させる作品がある。その歌詞がドイツ語なので、よく授業で紹介をしている。「われらはこの勝利を祝おう!」という箇所が「Feiern wir dieser Sieg!」となっている。大学1年で習うドイツ文法の初歩を理解していれば、すぐに誤りに気づくはずなのだ。「この勝利を」は4格なので、「dieser Sieg」ではなく「diesen Sieg」となるべきところなのだ。確かに初級文法なのであるが、初学者にはわかりにくい箇所かもしれない。私も学生のときに分かりづらかったので、自身のブログではとくに丁寧に説明をしている。インターネットで私のブログにたどり着き、少しでも理解の足しになってくれることを願う。アクセス数からもこの「定冠詞類」「不定冠詞類」がやっかいなことがわ

かる。

11. 音源について

音源はカセットからはじまり、CD、そしてQRコードと形を変えてきた。今、若者にかっこいいと言われているのが、カセットだそうだ。先だって渡辺先生のご退職祝いと永年お世話になった編集者の方への感謝を兼ねた宴を東京で催すことができた。その編集者の方とは2011年の大震災以来の再会であったが、月日の流れを感じさせない和やかな再会となった。その間、出版業界にも変化があり、ドイツ語を扱う出版社が減っていることなどを伺った。寂しい限りである。そのときに私たちの最新刊について話が及び、少しでも売上げに貢献できるよう執筆に着手したい旨を確認することができた。おそらく私が苦手とするAIを駆使しての作業となることが予想される。

12. 標準ドイツ語とオーストリアの発音

テキストの録音の際にこのようなことがあった。テキストを作成する側としては、標準ドイツ語で発音してもらわなければいけないのである。その録音のときは、オーストリア出身の方にナレーターとして協力をしていただいた。問題となったのが、「Knie」、膝という意味の中性名詞である。標準ドイツ語では、「クニー」と発音するが、そのネイティブの方は「ヒニー」と発音したのである。オーストリアでは普通の発音でなんら問題はない。しかし、作成者側としては、申し訳ないのだが、「クニー」と発音してほしい旨を伝え、了承していただいた。

私自身、同じような経験をしたことがあったのを思い出した。ウィーン大学留学中に、友人に会いにBremerhavenを訪れたときのことであった。この街は北海に面し、干潮のときには貝を拾いながらかなりの距離まで歩くことができた。街並みは北欧そのものであった。駅前のインフォメーションで電車の時間についての会話のやり取

りの際、私が「ツバンチック」と発音したときの係の人の表情が印象的であり、「どこの田舎から来たの?」と思ったかのようであった。「zwan-zig」, 標準ドイツ語では「ツバンチヒ」と発音する, 数字の20である。ドイツ最北の地から, ドイツ南部を経由してオーストリアのウィーンへ戻る夜行列車から見た「青色」がとても印象的であった。大気を超え宇宙へ繋がるブルーと言ったらよいのか, まさに「ドイツ・ロマン派の青」であった。

13. ネイティブとの出会い

さまざまご縁で知り合いになったネイティブの方々との出会いにより, テキスト作成のみならず多くの力添えをいただいた。ここではお二人の方をご紹介します。

シルヴィア氏とは私の留学先であるウィーン大学で知り合った。彼女は当時ウィーン大学の日本学科で日本語を勉強していた。非常に聡明で, 若い時のマリア・テレジアを彷彿とさせる雰囲気があった。マリア・テレジアと話をした男性はみな彼女の虜になったと言われているが, シルヴィア氏の場合もそうであった。彼女は日本で勉強したいという想いを持っていた。その当時, 私は代々木にあったドイツ語学院ハイデルベルク（以下ハイデルベルク）でアルバイトをしていた関係で,

彼女をドイツ語の教員として, ハイデルベルクの事務局長に紹介することができた。彼女はその人柄により, すぐに採用が決まった。ハイデルベルクの学院長がNHKのドイツ語講座を担当していた関係で, シルヴィア氏はNHKのドイツ語講師として, 一躍脚光を浴びるようになった。私の留学の成果はシルヴィア氏をハイデルベルクに紹介したという点においてのみ評価された。実は今回, 渡辺徳夫先生のご退職の記念としてこの雑報を書いているのだが, このハイデルベルクで私と渡辺先生は早朝から教室の掃除のアルバイトをして, 下積み時代を過ごしていたことが懐かしく思い出される。

武蔵野音楽大学で知り合ったバルチュ氏の録音は, 品格を感じさせるものがあり, 練習問題の解答の朗読でさえ格調高いのである。前職を尋ねてみると, 東ドイツのオペラ歌手であったとのこと。ちなみに, ご子息は声優として日本のアニメ界で活躍されていて, 「ラオウ」や「ジャイアン」の声を担当しているそうだ。

ウィーン大学主席教授インナーホファー氏, 詩人のシュマッツ氏, 作家のフォーグル氏, レンツ氏, シュトツキー氏, イェガー氏をはじめ, ご縁のあったすべてのネイティブの方々に感謝申し上げます。

14. おわりに（最強の教材とは?）

昭和60年に半年ほど, ウィーン大学に留学をする機会があった。この大学で将来につながる幾つかの出会いがあった。日本や米国から研究に来られていた先生方や研究者たち, Japanologie（日本学科）のドクターやオーストリアの学生たちと親交を深めることができた。大学のメンザー（学食）にはよく通ったものである。テーブルの上に置かれていたポストカードなどをいつか教材に使えないものかと日本に持ち帰り, 今でも捨てられず手元に保存している。身の周りのすべてが教材と言ってよかった。私にとって最強の教材はこのメンザーのポストカードなのかもしれない。また

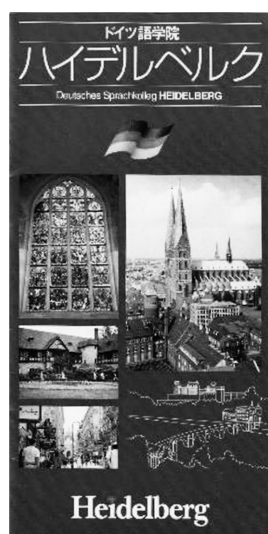


写真4 ドイツ語学院ハイデルベルク

よい経験になった大きな出来事はセンター入試問題作成にかかわったことである。ここでは自分の力不足を感じつつも、多くの出会いに恵まれた。

・作成したテキスト一覧

- 1 『ドイツを夢みて』文法読本 平成2年2月 共著 三修社
- 2 『医療分野のドイツ語』ドイツ語入門書 平成4年4月 共著 郁文堂
- 3 『ドイツより愛をこめて』文法読本 平成5年2月 共著 三修社
- 4 『医療分野のドイツ語』(新改訂) 平成7年4月 共著 郁文堂
- 5 『気分はドイツ』文法読本 平成8年4月 共著 三修社
- 6 『ドイツ語パラダイス』文法読本 平成9年2月 共著 三修社
- 7 『ドイツ近代看護の黎明』平成11年12月 共著 時空出版
- 8 『ドイツ語ルネサンス』文法読本 平成13年2月 共著 三修社
- 9 『らくらくドイツ文法』平成14年2月 共著 三修社
- 10 『ドイツ語ルネサンス』(新改訂) 平成17年2月 共著 三修社
- 11 『気分はドイツ』(新改訂) 平成20年2月 共著 三修社
- 12 『ドイツ語ルネサンス』(第3版) 平成25年2月 共著 三修社
- 13 『気分はドイツ』(改訂版) 令和3年2月 共著 三修社

著書

- 1 『医療を志す人のドイツ語入門』平成元年8月 共著 中部日本教育文化会
- 2 『外国人の見た日本』事典 平成4年8月 共著 日外アソシエーツ
- 3 『医療を志す人のドイツ語入門』(新訂版) 平成10年12月 共著 中部日本教育文化会
- 4 『ドイツ語文法の要点』参考書 平成23年7月 共著 三修社

(注1) 道都大学デザイン学科卒業(2004年)の進藤恒氏はこの作品の制作に関わっている。その他にも『実写版魔女の宅急便』、『実写版いぬやしき』等がある。

Auf der Suche nach dem schönsten Lehrbuch

KAWADA Ichiro

Abstract

Nach der Vereinigung Deutschlands trat am 1. August 2006 in Deutschland ein neues Rechtschreibgesetz in Kraft. In Japan gab es viele unterschiedliche Reaktionen auf die neue Rechtschreibung. Es dauerte einige Zeit, bis sich die Verwirrung legte. In dieser Zeit kam es zu Veränderungen in der Nachfrage nach Deutsch in Japan sowie zu Veränderungen im Inhalt der Texte sowie in der Schreibweise.

キーワード Deutsch Lehrbuch

